

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

## II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学習成果を図る適切な評価指標を開発するために、まず学習にとって阻害的効果をもたらす諸要因を発見し、これを除去するための検討を行う。	→「学生・教員に対するアンケート調査の実施と分析」「拡大大学院問題検討委員会(およびその内部に設置するWG)における教育効果についての分析・検討」	C	C			
2. 各プログラムに特有の教育上の問題点を発見するための手順を整備する。	→「学生・教員に対するアンケート調査の実施と分析」「プログラム別教員会議の設置と検討の進捗状況」	C	C			
3. 後期課程における論文指導の適切さを高めるために手順の改善を図る。	→「正副指導教員からなる指導委員会による論文指導プロセスの検証と指導項目・指導方法の明文化の検討」「博士学位取得モデルの妥当性に関する定期的な検証とその改善」「内規ないし履修モデルの改正」	B	B			
4. 学位審査の客観性・厳格性を対外的に確保するために学位審査手続の公開性を高める。	→「公開での口頭試問の実施率」「学外・研究科外の審査委員の招聘率」「学位審査手続の公開性を高めるための検討の進捗状況」「規程ないし内規の改正」	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 前期課程の各プログラム、後期課程の各専攻における教育理念に照らして、その教育効果を短期的のみならず長期的観点からも測定するための手法を検討すると共に、その知見に基づく学位授与基準の見直し、および学位認定手続の透明化、厳格化を図る。 教育効果の測定については、学生数が少ないため定量的な分析を行う前提を欠いており、現在は院生会との懇談などを通じて、各種資料を収集するための準備を進めている段階である。
小項目6.4.2	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。 (説明) 後期課程における学位認定基準の透明化・厳格化については、2009年度の拡大大学院問題検討委員会においてほぼ合意が成立し、1名の外部審査委員や公開での口頭試問の原則化などについて、2010年度に規定化した。
その他	

《評価指標データ》

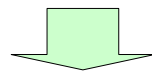
- 各学部における学生の進路状況
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
- 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
- KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
- 3年卒業の適用者数
- ジョイント・ディグリーの授与者数
- 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

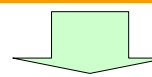
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### <評価専門委員会の評価>

##### 【学外委員】

○大項目6全体をとおして、「効果が上がっている事項」も「改善すべき事項」も特記されていません。たまたま該当する件がなかったのかもしれませんが、努力の結果についてもう少しきめ細かな点検・評価をし、改善に結び付けていくことが望まれます。

##### 【学内委員】

○6.4.1の記述が昨年度と同じです。2010年度に実施したことについての記述が必要です。目標1に関するアンケートについて言及がないですが、実施の有無、あるいは結果について記述することが望まれます。学位授与に関する事項の規定化は前進があり評価できます。  
○取組みが進捗中と判断されます。特に、後期課程における学位認定基準の透明化・厳格化に向けた取り組みについては評価できます。  
○学習成果の測定は難しいところであり、検討中ですが、現状においての評価の記述が必要ではないでしょうか。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

##### ○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に向けている」

##### ○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目 6.4.1 の現状説明に下記を追加。

「継続的に、学生に対するアンケートを行い授業等の改善の資料を得るようにするとともに、研究科委員会で結果を配布し各教員レベルでの改善を促している。」

★ ○小項目 6.4.2 の現状説明に下記を追加。

「原則として審査委員1名は法学研究科以外の教員とする、公開での論文発表会の開催を原則とする、論文閲覧期間を設ける、審査要旨を事前配布する、などを内規に定めた。なお、博士学位論文の審査基準については、2009年度より、研究者用、高度専門職業人用に区別して定めている。」